

エッチを知る社会  
人になった俺 岩  
風呂の裏の入り口  
大乱交に参加

その温泉へは、

学生時代なども友人たちとよく行って

いた。

畳の広間の食堂で和食を食べ、  
借りた浴衣で木床の廊下を歩いている  
と旅行へ行ったような気分。

こんな良い温泉が近くにあるのだから  
俺たちは幸福というものだ。

缶ビールを開け、営業終了の深夜まで飲

み明かしたことは今となっては忘れられない思い出である。

社会人になり、俺は性を知る。

OLのリリサさんに全てを教わったのだ。

リリサさんは俺の上司。  
事務職の先輩である。

もう既婚で、子供さんも3人おられる方  
であった。

リリサさんからある日、小さなチラシを

渡される。

「・・・・・・・・ここが、毎週4回私に通  
っているジムなの」

そしてこう付け加えた。

・・・・・・・・あなたの新人の時の素直

さ、そして上達している真面目で仕事熱心な姿に私惚れちゃったわ。

・・・・・・・・どこかのテレビドラマか映画にあるような社内恋愛がよぎったが。

リリサさんとの関係は

魔法であった。

まるで自分で思い描いた物語のように  
話は進んでいって……。

ジムは新築のビルの3階。  
駅前にあった。

若者中心のジムだが3、40代も多い。

リリサさんはビキニを着てプールで泳いでいた。

「.....あなたもここで体鍛えてみ

たらどう??」

プールから上がってジム内へやってきた  
リリサさんは、  
そう言って窓の外の車を指さした。

俺はモッコリスパッツを穿いていた。

・・・・・・・・・・今晚ホテルでも一緒にど

う??

そのサインに思えた。

だけどまだ時間内。俺たちはトレーニングをすることに…………。

フィットネスマシン、ランニングマシンに床に寝そべってゴムボール。

色々なトレーニングを試したが、

普段から坂道を走っている俺は

なんとかついていけた。

鍛えているリリサさんの体は

大人の魅力たっぷりだった。

トレーニングを手取足取りリリサさんとジムのトレーナーさんから教わりながら、スパッツの中で俺は射精してしまいそうだった。

その夜。

明け方まで

俺はリリサさんに社会人になるとはど  
ういうことかを

たっぷりみっちりと教わった。

リリサさんとの付き合いは長くなった。

駅前のジムで一緒に鍛えたり

カフェで一緒に大きなパフェを食べた。

リリサさんの下着は白から薄い水色に  
変わっていた。

そして夜景の下、

真っ赤なパンティ。

現在 31 歳の俺。

自分がずいぶんと変わったことを実感。

セックスを知ってから。

久しぶりに俺は街のあの温泉へ向かっ

た。自家用車で30分。街のはずれ。

スマホの一番上にはリリサさんの電話番号。いつでも会える。いつでもセックスできる。

その安心感、何よりの希望を頼りに俺は勃起を抑えられぬまま温泉内へ。

(体験版は以上になります。ご読了あり

がとうございました)